

◇定例研究会（二月一七日（土）、名古屋大学文学部、参加者一七名）

※近世史研究会と合同

〔書評会：池内敏「絶海の碩学―近世日朝外交史研究―」

報告 米谷 均氏

春日 豊「戦後歴史学」から何を学ぶか

―歴史の法則性・構造・主体性―

小久保嘉紀「書評 水野智之

「名前と権力の中世史―室町將軍の朝廷戦略―」

◇定例研究会（三月二七（火）、名古屋大学文学部、参加者二五名）

※愛知県歴史教育者協議会と合同

風巻 浩氏「アクティブ・ラーニングと社会科教育

―文科省的アクティブ・ラーニングに抗って―

二〇一七年度 名古屋歴史科学研究会総会報告

〔機関誌〕

◆第一四八・一四九合併号（二〇一八年三月一〇日発行、九〇頁）

（二〇一六年度 名古屋歴史科学研究会大会特集号

大会テーマ：外世界と地域社会―移民・植民・先住民―

研究委員会「特集にあたって」

金 耿昊「在日朝鮮人社会の形成と労働・失業・貧困問題」

菊池一隆「台湾北部タイアル族の二段階変容

―日本植民地時代、国民党政権時代を中心に―

山本明代「第二次世界大戦期ハンガリーにおける

ドイツ系住民の強制移住と地域社会」

討論要旨

平野仁也「寛政諸家系図伝」の編纂と諸家の動向」

『歴史の理論と教育』総目次（第一号（第一五一号））

創刊号（一九六五・六・二〇）

上村順造・福岡猛志「文部省史学とアカデミズム史学の最近の傾向
について―村尾次郎・井上光貞両氏の近著にふれて―」

第二回例会開かる

歴史科学研究会結成準備会「歴史科学研究会の発足 創立総会と第
一回例会開かる」

塚本学「創立総会に参加して」

歴史科学研究会結成準備会「歴史科学研究会結成のよびかけ」

歴史科学研究会会則

第二号（一九六五・九・二〇）

原 昭午「幕藩体制の成立についての覚書―安良城理論の検討を中
心に―」

飯田暁子・子日晋弥「日本近代史の教育・研究について―八月の歴
史教育特別例会参加記―」

例会報告

会告

第三号（一九六五・一二・二〇）

服部春彦「フランス産業革命史に関する覚書」

貫井正之「日韓会談」をめぐる鈴木正四氏の講演を聞いて」

例会報告

新年度例会予定

都留文科大学三教官と学生支援の訴え

教科書検定訴訟支援の訴え

事務局より

第四号（一九六六・三・二三）

河合正樹・岡崎俊彦「名古屋における大正期の民衆運動（稿）―電
車焼打騒動（一九一四年九月）と米騒動（一九一八年八月）―」

森 正夫「論評 近代化論の再検討を検討する」

運営委員会「第一回歴史学四団体協議会の報告」

第五号（一九六六・六・二〇）

伊藤忠士「歴史教育の当面する課題―現実から何を学ぶか―」

貫井正之「論評 山辺健太郎著『日韓合併小史』を読む」
坂野良吉「中国における社会主義建設と歴史学」(第一回例会特別講演)をきいて」
第二回総会記録

一九六六年度例会記録

第六号(一九六六・九・三〇)

坂野良吉「中国近代史における反革命勢力の形成について―湘軍成立の意味するもの―」
佐藤明夫「たたかう歴史教育への胎動―第二回歴史教育シンポジウム参加記―」

研究会のお知らせ(歴史教育研究会)

今枝豊彦「論評 藤島宇内・小沢有作『民族教育』を読む」

福岡猛志「一九六七年一月にシンポジウム開催さまる―四団体連絡会の報告―」

シンポジウムのお知らせ(シンポジウム 歴史学の前進のために)

歴科研十月例会のご案内

第七号(一九六六・一一・二五)

朴 慶植「日本近代史における朝鮮―われわれは近代の朝日関係をどのように正しくうけとめるべきか―」

常任運営委員会「歴四協の全国組織化について会員諸氏への訴え―連絡会議のその後の経過と当面の問題―」

第一〇号(一九六七・九・三〇)

青木之茂「沖繩学習の反省」

岸野俊彦「歴科協第一回大会に参加して」

例会記録

神野清一「第三回歴史教育シンポジウム参加記」

第一一号(一九六八・一・一五)

芝原拓自「日本帝国主義と朝鮮の『社会的革命』」

原(昭午)「歴史科学協議会の動き」

「二月十一日」のとりくみについて(委員会)

例会記録

第二二号(一九六八・四・二〇)

福岡猛志「『明治百年祭』批判のとりくみと問題点―運動の中間総括のために―」

例会記録

第三号(一九六八・一〇・二〇)

坂野良吉「上海開港のあとにくるもの―一八五三年の上海小刀会の反乱の背景の検討―」

例会記録(第四回総会記録を含む)

第一四号(一九六九・三・一〇)

鈴木佳代「幕末から明治前期、民衆教育の展開―私塾教育を中心にして―」

長野良一「論評 『孫文と中国革命』(野沢豊著)を読んで」
神野清一「時評 『紀元節』復活 なにをなすべきか」
一九六六年度例会記録

第八号(一九六七・三・二五)

上村喜久子「南北朝く室町期の領主制をめぐる―国人領主制研究の問題点を中心に―」

山田鋭夫「論評 内田義彦著『資本論の世界』を読んで」

常任運営委員会「進展する『歴科協』(仮称) 全国組織化の準備―歴科研総会と京都シンポそして創立総会へ―」

常任運営委員会「『建国記念日』制定反対運動について」

例会記録

第九号(一九六七・七・一〇)

伊藤康子「戦後民衆運動の思想―統一戦線思想を中心に―」

歴科協創立―第一回大会の準備すすむ―

歴史科学協議会創立宣言

歴史科学協議会会則

例会・総会記録

歴科研例会のお知らせ

歴史教育者協議会(愛知)再建準備すすむ

「建国記念日(紀元節)制定不承認運動の記録」発行のご案内

例会記録

第一五・一六合併号(一九六九・四・二〇)

シンポジウム 新日本新書『日本歴史』(全三巻)をめぐる(出席者:伊藤忠士、上村喜久子、江口圭一、芝原拓自、玉井力、福岡猛志)

福岡(猛志)「教科書検定訴訟を支援する愛知県連絡会の結成についてのお知らせとおねがい」

例会記録(第五回総会記録を含む)

第一七号(一九六九・七・二)

福岡猛志「『アジア的生産様式論』の現代的意義―歴科協大会テーマを深めるために―」

名古屋歴史科学研究科第五回総会「靖国神社国家護持に反対する」

愛知県下における大学立法阻止闘争

「靖国神社国営化」反対運動の動向

教科書検定訴訟支援の動き

例会記録

歴史科学協議会第三回大会・総会のご案内

第一八号(一九六九・一〇・三一)

江口圭一「日本現代史研究の最近の動向」

横地(稜治)「第三回歴史科学協議会大会・総会だより」

「歴科研大学」を成功させよう

第一九号 (一九七〇・二・五)
三鬼清一郎「豊臣期給人知行権の一考察—安良城盛昭氏「太閤検地と石高制」に寄せて—」
安丸良夫「靖国神社問題と信教の自由」
例会記録
第二〇号 (一九七〇・五・一〇)
神野清一「日本古代奴婢論に関する覚書」
第二一号 (一九七〇・七・二五)
朝尾直弘「幕藩制国家論の諸問題」
西 秀成「紹介 東京歴史研編『歴史を学ぶ人々のために』」
第六回総会記事
例会記録
「歴史の理論と教育」(創刊号〜二十号) 総目録
歴史科学研究会結成のよびかけ(再録)
歴史科学協議会第四回大会・総会の御案内
第二二号 (一九七一・四・二〇)
青木忠夫「地租改正前後、愛知郡の農民一揆について—愛農社の運動を中心にして—」
例会記録
読書会

第二回歴研大学
歴史科学協議会第四回大会・総会開かる
「二・一一」集会について
教科書裁判勝利のために県連絡会に加入しよう
家永三郎氏来名—七・六裁判支援大集會に
第二三号 (一九七一・六・二〇)
新行紀一「中世後期の農民闘争と一向一揆」
西 秀成「津地鎮祭違憲訴訟判決公判傍聴記」
第七回総会記事
最高裁の暴挙に抗議する決議
第二四号 (一九七一・一〇・三〇)
西 秀成「日本軍国主義の基礎にかんする覚書—一八八二年の徴発令を中心にして—」※目次には「関する」とあり。
例会記事
歴史科学協議会第五回大会、総会について
第二五・二六合併号 (一九七二・一一・二一)
〈特集〉書評・講座日本史(歴史学研究会・日本史研究会編)
名古屋歴史科学研究会「シンポジウム 書評・歴史学研究会 日本史研究会編「講座日本史」(東大出版会刊)一〜五巻」
伊藤康子「書評 講座日本史八 日本帝国主義の復活」

第二七号 (一九七二・五・二一)
岸野俊彦「幕末「国学」再検討のために」
西 秀成「愛知県護国記念館」建設計画の問題点」
第八回総会記事
例会記録
読書会記録
決議(愛知県護国記念館建設反対)
名古屋歴史科学研究会会則
「二・一一」集会について
愛知県護国記念館についての桑原愛知県知事に対する公開質問状
第二八号 (一九七二・八)
小田雄三「日本封建制論の現状について」
西田真樹「『愛知県護国記念館』問題新たな段階に」
第二九号 (一九七三・二・二一)
中田 実「町内会の歴史と現状—名古屋の場合を中心に—」
原 昭午「靖国闘争の現段階—靖国神社法案阻止をめざす全国集會から」
例会記録
歴史協第七回大会の要綱案
「二・一一」集会について

北陸歴史科学研究会の結成について
第三〇号 (一九七三・七・二〇)
福岡猛志「名古屋博物館(歴史博物館) 建設計画における問題点それは住民要求に込えているか」
第九回総会記事
例会記録
名古屋博物館(仮称) 建設計画についての要望書
第三一号 (一九七三・一一・一〇)
西田真樹「幕藩権力をめぐる一、二の問題」
名古屋博物館関係資料「声明」/「名古屋歴史博物館を考へるつどい—よりよい博物館をめざして—への参加をよびかける」
例会記録
第三二号 (一九七四・三・一〇)
服部春彦「十八世紀フランスの植民地貿易について—本国産業との関連を中心に—」
「二月一日」教育・思想と信教の自由を守る愛知県民集會について
例会記録
第三三号 (一九七四・五・二〇)
松塚俊三「ロンドン通信協会とイギリス労働者階級の形成」
岸本知子「書評 横地穰治著『信濃における世直し—揆の研究』」

名古屋博物館関係資料「名古屋博物館（歴史博物館）建設計画の内容を改善するために」
総会記事
第三四号（一九七五・五・一〇）
堀越 智「IRAの起源をめぐって」
一九七四年度研究例会
読書会
第三五号（一九七五・五・二〇）
梅村 喬「八・九世紀国家財政と監察機構」
第三六号（一九七五・八・二三）
伊藤忠士「国家神道形成と民衆―「ええじゃないか」研究の二・三の問題―」
西 秀成「愛知県護国記念館のその後」
福岡猛志「国立民族学博物館について―名古屋歴史博を念頭において―」
一九七五年度新役員（五十音順）
第三七号（一九七五・一一・一四）
梅村佳代「民衆の公教育組織化運動について―郷学校を中心に―」
山森寿子「書評『日本民衆の歴史五 世直し』」
歴科研近代史部会「近代史研究会」発足
例会・読書会記録

第三八号（一九七六・四・二〇）
清水 稔「辛亥革命前の湖南における革命運動―共進会と焦達峯―」
愛知県歴史教育者協議会「歴史教育の問題点」
民社党春日代表に対する抗議文
第三九号（一九七六・五・二五）
新行紀―「松平中心史観」と「三河物語」
池永二郎「現代における歴史教育の課題」
第四〇号（一九七六・八・二〇）
大塚克彦「オットー三世研究の現状と課題」
伊藤忠士「横政復古誤一新」
近代史研究会「近代天皇制国家論」の検討」
第四一号（一九七七・五・二二）
日置雅子「カロリンガーにおける統一理念と分割理念」
一九七六年度 総会・研究例会記録
福岡猛志「名古屋市（歴史）博物館の開館と今後の問題について」
第四二号（一九七七・八・二〇）
高木備太郎「織田政権と地域的支配権―脇田修氏の「一職支配」論の検討―」
第四三号（一九七七・一一・二八）
原口 清「最近の近代天皇制の研究について」

歴科研だより
西 秀成「鳴海小作争議と未解放部落―井上清『部落問題の研究』の旧説について」
例会・読書会の記録
第四四・四五号合併号（一九七八・八）
シンポジウム 天皇制と現代 ※発行の日付は年・月のみ
原 昭午「開会のあいさつ」
芝原拓自「歴史学の立場から」
長谷川正安「法学の立場から」
福田静夫「哲学の立場から」
討論
付記
第四六号（一九七八・一〇・三〇）
正木敬二「個人史」における史料批判の問題―深谷克己著「八右衛門・兵助・伴助」を読んで―
梅村佳代「津田秀夫著「近世民衆教育運動の展開」
石井明美「塚本学著「地方文人」を読む―五月読書会に参加して―」
一九七八年度名古屋歴史科学研究会総会
例会記録
読書会記録

第四七号（一九七九・二・八）
梅村 喬「国術研究史ノート」
〈台評会〉 網野善彦著「無縁・公界・楽」
例会記録 その他
第四八号（一九七九・一一・三）
「東海と伊那」著者正木敬二氏を囲んで① 下伊那の無産者運動の生証人として（ききて 深谷克己・梅村佳代・岸野俊彦）
西 秀成「鳴海小作争議と未解放部落・補遺」
七九年度総会記録
元号法制化反対運動の記録
第四九号（一九八〇・一一・二）
「東海と伊那」著者正木敬二氏を囲んで② 幕末・維新期の民衆と文化（ききて 深谷克己・梅村佳代・岸野俊彦）
深谷克己「個人史」における史料理解の問題」
福岡猛志「鉄剣銘文をめぐる二、三の感想」
第五〇号（一九八〇・一一・〇〇）
西 秀成「天皇嘉仁即位礼前後」
「歴史の理論と教育」総目次
名古屋歴史科学研究会例会一覽
第五一・五二号（一九八一・八）
重松正史「十五年戦争学習とその問題点」

石井明美「現代女子高校生と戦争」※目次では「女子高生」
西 秀成「靖国神社問題資料Ⅰ 靖国神社合祀年表（一八六九—一九七二）」
一九八一年度名古屋歴史科学研究会総会記録

第五三号（一九八二・七・一）
東海近代史研究会・名古屋歴史科学研究会「自由民権百年愛知県民の集い」記念報告集

佐藤政憲「民権運動の残したるもの」
正木敬二「自由民権家の生涯的評価」
日比野元彦「飯田事件研究の課題」
あとがき

第五四号（一九八二・八・一） 日本古代史特集
岩口和正「日本古代身分制についての覚書（その二）」
福岡猛志「行基と大仏（補論）」

靖国神社国営化反対運動の現段階—七・三一集会について—
伊藤忠士「『教科書』判決報告集公開かる」
一九八二年度名古屋歴史科学研究会総会記録

活動日誌
歴史科学協議会第一六回大会の御案内
第五五号（一九八二・九・一）
岩口和正「日本古代身分制についての覚書（その二）」

江口圭一「歴史教科書の記述と検定—沖縄戦をめぐる覚書—」
西 秀成「柳田国男と天皇制論—大嘗祭論にふれて—」
津田多賀子「『書評』芝原拓自『日本近代化の世界史的位置—その方法的的研究—」

第五六号（一九八二・一一・二〇）
名大・西洋史研究室／社会史研究グループ「西洋史研究における『社会史』の意義」
下村寿子「徴兵忌避としての失踪逃亡—一九一八年までの現岡崎市域の実態を中心に—」
名古屋歴史科研事務局「守山区志段味・吉根地区における自然と歴史を守る運動について」

第五七号（一九八三・二・一一） 教科書問題特集
青木美智男「教科書問題と執筆者の立場—高校日本史教科書の編集に参加して—」
佐藤明夫「国際的教科書批判問題をどううけとめるか—愛知の高校教育の中で—」

岩野見司「愛知県における歴史資料保存運動」
伊藤忠士「〈紹介〉守山郷土史研究会会報『もりやま』」
〈紹介〉札幌商科大学人文学部編『北海道民衆の歩み—公開講座・北海道文化編』
〈紹介〉歴史学研究会編集発行『歴史家はなぜ『侵略』にこだわるか』（青木書店）
〈会告〉二・一一県民の集い（一九八三年二月一日開催の集会）

第五八号（一九八三・六・二〇）

村岡幹生「日本中世社会における盗犯の位置・試論—盗みか裁判にかけられる時—」

岩口和正「日本古代身分制についての覚書（その三）」

岩口和正「伊勢齋宮跡の保存と調査の一層の発展を訴える」

名古屋歴史科学研究会総会報告（一九八三年度総会）

活動日誌

第五九号（一九八三・一一・一五）

吉尾 寛「明末農民戦争史研究に見る『孫祚民史学』（上）—孫祚民氏の近著『中国農民戦争問題論叢』について—」

梅村 喬「靖国問題に関する現代学生の意識—箕面忠魂碑・山口自衛官合祀両判決について—」

堀部 誠「教科書裁判を傍聴して」

活動日誌

第六〇号（一九八四・五・一九）

吉尾 寛「明末農民戦争史研究に見る『孫祚民史学』（下）—孫祚民氏の近著『中国農民戦争問題論叢』について—」

佐藤政憲「自由民権百年第二回全国大会にむけて—研究をめぐる諸問題—」

梅村佳代「正木敬二氏 追悼文」

一九八四年度名古屋歴史科学研究会総会報告『名古屋歴史科研の今後—あり方を抜本的に考える—』二〇年目をむかえて新たな飛躍のため—」

第六一号（一九八四・一一・一一）

楊 国楨／解題・翻訳 森 正夫「中国の封建的土地所有権と地主制経済構造の特質」

活動日誌

第六二号（一九八四・一一・一七）

大塚英二「近世農村史研究の前進のために」

原 昭午「史料紹介 寛永一八年加賀藩の知行割定書」

研究集会の記録

第六三号（一九八五・五・二五）

岩口和正「『家族』史研究の前提と課題」

〈紹介〉正木敬二編『自由民権年表—明治一七年（一八八四）を中心に—」

第一九回「二・一一民主主義と平和のために戦争を語りつぐ愛知県民のつどい」を終えて

一九八五年度名古屋歴史科学研究会総会報告

第六四号（一九八五・八・二〇）

梅村 喬「好太王碑を訪ねて」

西 秀成「最近の天皇制イデオロギーをめぐる論議から」

岡田洋司「書評」半田空襲と戦争を記録する会編『半田空襲の記録』
第一三期日本学術会議会員選挙にあたっての国会のとりくみの経過について
伊藤孝道・広瀬務「公開講座」靖国の歴史に学ぶ」を終って」
例会報告

第六五号（一九八五・一二・一五）
木谷 勤「現代世界史の諸課題—世界システム論の視点から—」
伊藤忠士「三河加茂一揆の情報—その一揆認識と一揆観—」
加藤泰史「歴史学・方法論・相對主義—小谷汪之『歴史学の方法について』をめぐって—」

第六六・六七合併号（一九八六・四・二五）
徐 新吾／解説・翻訳 奥村 哲「中国・日本の綿紡織業における資本主義萌芽の比較研究」
西 秀成「ドキュメント・靖国神社をめぐる日中問題（一九八五年）」
高木勇夫「社会史ブームと西洋史研究者の立場」

第二回研究会の記録
活動日誌
第六八号（一九八六・一一・一四）
原 昭午「尾張藩における被差別身分の成立について—寛文七年の触書の理解を中心に—」

第七二号（一九八八・一〇・一八）
福岡猛志「三河湾」海部・賛「木簡の諸問題」
豊見山和行「書評」高良倉吉著『琉球王国の構造』
活動日誌

第七三号（一九八九・二・一一）
特集「家族・血縁集団の諸形態」—第五回研究会シンポジウム—
熊野 聰「中世初期アイスランドの家族と「血の復讐」—大塚光子訳「スールの子ギースリの物語」刊行によせて—」
岩口和正「密懐法の成立をめぐる」
青山幹哉「報告要旨」鎌倉期の武士系図について」
神谷 智「報告要旨」近世百姓の「イエ」をめぐる」
研究会の記録

伊藤康子「シンポジウム」たった一人の女性参加者」
〈紹介〉加藤高規「稚本朗造と鳴海小作争議」
〈紹介〉声明「最近の天皇に関する事態について」
活動日誌

第七四号（一九八九・五・二七）
平野岳美「律令制下の国造について—研究史の再検討と課題—」
伊藤正彦「書評」森正夫著『明代江南土地制度の研究』
研究委員会「天皇代替り愛知県下の動向—新聞による、八八年九月二〇日、八九年二月二四日—」

岩口和正「書評」神野清一『律令国家と賤民』
寛 敏生「書評」荒木敏夫『日本古代の皇太子』
第三回研究会の記録
第二回近世史サマーセミナーの記録
一九八六年度名古屋歴史科学研究会総会報告

第六九号（一九八七・七・二）
黒羽清隆「一五年戦争と天皇」
山本 進「開港以前の中國棉紡織業—日本との技術比較を中心に—」
一九八七年度名古屋歴史科学研究会総会報告

第七〇号（一九八七・一〇・二四）
神谷 智「近世土地所有論に関する一試論—高請地における「共同所持」について—」
神野清一「古代身分制研究の視点と課題—二つの書評に学んで—」
高木勇夫「自己喪失の危機と歴史学」

第七一号（一九八八・五・二八）
ドキュメント・教科書裁判—関東軍第七三二部隊をめぐる江口圭一証言より—
桑山利和「教科書裁判を傍聴して」
小野和英「歴科研究会参加とその後」
一九八八年度名古屋歴史科研総会報告

一九八九年度名古屋歴史科研総会報告
活動日誌 ※表紙は「活動日記」
第七五号（一九八九・九・三〇）
青木忠夫「將軍代替りにおける真宗教団の誓詞について」
倉橋正直「大連慈恵病院の二人の見習い看護婦」
例会報告要旨

活動日誌
第七六号（一九八九・一一・一五）
寛 敏生「伊勢内宮神号書き載せ事件について—名古屋市蓬左文庫蔵「大炊御門家文書」紹介—」
大塚英二「農村荒廃地帯の年季奉公人欠落の一齣」
中世史サマーセミナーの記録

第七七号（一九九〇・二・二八）
特集「移行期の社会と法」—第六回研究会から—
研究委員会「特集にあたって」
倉橋正直「現代社会主義を考える—中國天安門事件などによせて—」

伊藤孝幸「近世の法体系について—刑法の整備と中國法の受容—」
日置雅子「中世ヨーロッパ王権の適格性」
森正夫報告「水林氏『日本史における社会と国家』の前近代中國理解に寄せて」要旨

討論の経過
集会参加記
活動日誌
第七八号 (一九九〇・五・二六)
伊藤孝幸「日本近世知行制の再検討―尾張藩を素材として―」
西 秀成・寛 敏生・梅村 喬「最近の大嘗祭をめぐる著作について」
一九九〇年度名古屋歴史科研総会報告
活動日誌
第七九号 (一九九〇・九・二九)
若尾祐司「西ドイツの女性史研究をめぐる」
高木勇夫「社会史と女性史―若尾報告へのコメント―」
西 秀成「一九一四―一五年の悠紀齋田―史料紹介を中心に―」
活動日誌
第八〇号 (一九九一・三・三一)
高木勇夫「コレラ・パンデミーの伝播」
重松正史「地域開発をめぐる「伝統」と近代―一九一〇年前後の和歌山市の場合―」
一九九〇年度研究会の記録 (報告概要)
木谷 勤「最近の東欧情勢と歴史学―個人的感想―」

梅村 喬「天皇」の呼称をめぐる」
活動日誌
第八一号 (一九九一・八・二)
高木備太郎「町屋の「棧敷」見世」性と広場空間としての「町(マチ)」について」
岩口和正「日本古代の「天皇」号をめぐる」
総会記録
第八二号 (一九九一・一一・一五)
津田多賀子「明治一〇―一一年の双務主義の日清条約特約交渉」
栗田和典「パンブリジ事件ノート―一七二九年オウグルソープ報告書の性格―」
活動日誌
第八三号 (一九九二・二・一一)
神野清一「良賤訴訟と戸籍―平田耿二説への疑問―」
玉木俊明「イギリスの工業化とオランダの金融資本―ニール著『金融資本主義の台頭』を手掛りとして―」
一九九一年度研究会の記録
活動日誌
第八四号 (一九九二・七・二)
戸田裕司「救荒・荒政研究と宋代在地社会への視角」

梅村佳代「高橋敏氏の近業によせて―近世民衆の文字文化と教育を考える―」(学会動向)
一九九二年度名古屋歴史科学研究会総会報告
活動日誌
第八五号 (一九九二・一一・一一)
※それまで白だった表紙がこの号から薄緑色になった。
棚橋信明「プロイセン改革期における「人民蜂起」の問題」
大塚英二「近世期地主小作関係に対する村共同体の関与について―主に遠州地方の事例から―」
活動日誌
第八六号 (一九九三・三・一五)
※この号から目次のポイントが少し大きくなった。
鈴木えりも「江戸幕府將軍の外交称号」
加藤英俊「『新修名古屋市史』問題を考える」
高木勇夫「近代史のポロス・テロス・ポリス―柿本昭人『健康と病のエピステーメー』(ミネルヴァ書房、一九九一年)を読んで―」
活動日誌
第八七号 (一九九三・五・二四)
村岡幹生「『所質』『国質』考異説―中世の自力救済と上位暴力依存―」
青木美智男「書評 梅村佳代著『日本近世民衆教育史研究』」
※表紙及び本文の記載とは異なるが、明らかに誤りのため修正。

活動日誌
第八八号 (一九九三・一一・二〇)
青木忠夫「初期の名古屋新田―寛文期を中心にして―」
清水美穂「ボスニア紛争における民族とはなにか」
一九九三年度名古屋歴史科学研究会総会報告
活動日誌
第八九号 (一九九四・三・二)
倉橋正直「密航婦「虐殺」事件と多田亀吉」
西 秀成「靖国神社に祀られた「外国人」と女性―靖国神社問題資料Ⅱ―」
伊藤孝幸「戦後における近世史料類の収集過程―名古屋大学附属図書館所蔵高木家文書の場合―」
市史問題担当委員「『新修名古屋市史』問題への取り組みについて」
活動日誌
第九〇号 (一九九四・五・二八)
周藤芳幸「再分配システム試論―エーゲ海宮殿社会の経済構造をめぐって―」
寛 敏生「一八六八年―尾張藩の勤王誘引運動―」
高木備太郎・加藤英俊「『新修名古屋市史』第七卷(現代)執筆構想案の問題点について」
一九九四年度名古屋歴史科学研究会総会報告

活動日誌

第九一号 (一九九四・一一・一九)

棚橋信明「旧東ドイツ (ドイツ民主共和国) における解放戦争史研究の「遺産」」

三田昌彦「インドの大学事情」

司法資料の保存・活用の問題点―「中部司法資料研究会」設立総会に参加して―

第三三回実行委員会 (名古屋) 「第三三回近世史サマーセミナーの記録」

例会予定・活動日誌

第九二号 (一九九五・三・三一)

岸野俊彦「「ええじゃないか」と近世社会―伊藤忠士氏の研究をめぐって―」

福岡猛志「半田市誌と伊藤忠士さん (チュウウさん) のこと」

西形久司「瓊未化する大学入試日本史問題」

倉橋正直「青島新聞資料文庫の紹介」

大田由紀夫「黒田明伸著『中華帝国の構造と世界経済』をめぐって」(第九回研究会の記録)

若尾祐司「地方史研究の復興 (ドイツの場合) ―旧ヴェストファーレン州とビーレフェルト市を中心に―」(第九回研究会の記録)

活動日誌

第九三号 (一九九五・一一・一八)

安原 功「公卿議定構造論に関する覚書―平安貴族社会における政治文化史の試み―」

青木忠夫・伊藤康子・木谷 勤・栗本伸子・酒井 一・内藤範子・村尾ルミ・森 正夫「一九四五・八・一五をふり返って」

研究委員会「九五年夏・戦争展レポート」

「いまこそ憲法九条を」…歴史研究者の賛同署名

一九九五年度名古屋歴史科学研究会総会報告

活動日誌・例会予定

第九四号 (一九九六・二・二九)

栗田和典「パンブリジ事件 (一七二九〜三〇年) ―債務者囚人をめぐる「博愛」的施策と党派― (上) 」

山崎 圭「近世村落の構造と組―信濃国佐久郡五郎兵衛新田村の事例分析―」

和田 実「町並み保存と町割り保存」

活動日誌・例会予定

第九五号 (一九九七・二・一一)

※この号以降は掲載論文等がCIEに掲載されている。

玉木俊明「ヨーロッパ近代国家形成をめぐる一試論 ―「軍事革命」・「軍事財政国家」・「プロテスタントラインターナショナル」―」

栗田和典「パンブリジ事件 (一七二九〜三〇年) ―債務者囚人をめぐる「博愛」的施策と党派― (下) 」

西 秀成「紹介」半田の戦争記録―半田市誌別巻―」

一九九六年度名古屋歴史科学研究会総会報告

活動日誌

第九六号 (一九九七・五・二四)

秋山晶則「神明勸請・神号使用問題からみた幕藩権力と伊勢神宮―尾州岩倉神明一件」覚書―」

中生加康夫「風船爆弾顛末記」

若尾祐司「回想記 ドイツ語圏の大学と歴史学」

倉橋正直「朴樞著・許東祭訳『日本の中国侵略とアヘン』によせて」

活動日誌

第九七号 (一九九七・八・一五)

上川通夫「顕密主義仏教への基本視角」

加納 寛「タイの大学と歴史研究―日本人留学生の手記―」

第三四回中世史サマーセミナー事務局「第三四回中世史サマーセミナーを開催して」

活動日誌

第九八回 (一九九七・一一・一八)

羽賀祥二「清洲城跡と記念碑の建立―地方名望家による歴史の創出―」

神谷 智「書評 大塚英二著『日本近世農村金融史の研究―村融通制の分析―』」

堀田慎一郎「九七あいち・平和のための戦争展」活動報告」

活動日誌

第九九号 (一九九八・二・一一)

小島 崇「産業革命期イギリスの救貧法をめぐって」

秦 達之「高校生は歴史の授業に何を求めているか―現行入試下における私の日本近現代史の授業を通じて―」

一九九七年度名古屋歴史科学研究会総会報告

活動日誌

第一〇〇・一〇一合併号 (一九九八・七・三一)

特集 愛知における女性史

研究委員会「特集にあたって」

伊藤康子「婦選獲得同盟愛知支部小史」

加藤恵美「愛知県における「職業婦人社」運動の展開」

石月静恵「名古屋における宝塚歌劇公演について」

森 扶佐子「素朴な願いをたたかいて―聞き書き鈴木琴世―」

川口ちあき「いつも世直しと女性の味方―聞き書き青山三枝さん (新日本婦人の会愛知県本部 名誉会長) ―」

名古屋歴史科学研究会機関誌「歴史の理論と教育」総目次

一九九八年度 名古屋歴史科学研究会総会報告

活動日誌

第一〇二号 (一九九八・一〇・一〇)

住友元美「公娼問題と都市生活―一九一〇年代の大阪、飛田遊郭設置問題を事例に―」

山崎 圭「書評 伊藤忠士著『近世領主権力と農民』」

活動日誌

名古屋歴史科学研究会研究集会の案内

第一〇三号 (一九九九・一・一)

武島良成「日本軍とタキン勢力の関係について」

住友元美「書評 伊藤康子『闘う女性の二〇世紀 地域社会と生き方の視点から』」

倉橋正直「愛知の戦争資料館建設問題」

活動日誌

第一〇四号 (一九九九・七・七)

特集 一九九八年度名古屋歴史科学研究会 研究集会報告集

研究委員会「特集 一九九八年度名古屋歴史科学研究会 研究集会報告集」

前村佳幸「書評 足立啓二著『専制国家史論―中国史から世界史へ―』」

三田昌彦「コメント 団体的発展から見たインド前近代史―足立啓二『専制国家史論』を読んで―」

大塚英二「コメント 足立啓二『専制国家史論』を読んで」

足立啓二氏から (リプライ)

渡辺尚志「歴史科学協議会大会篠宮雄二氏報告批判」

篠宮雄二氏から (リプライ)

岩間俊彦「イギリスのミドリリングソート研究に関する一考察」

岩間報告質疑応答

活動日誌

第一〇五号 (一九九九・九・九)

藪田貫「近世の地域社会と国家をどうとらえるか―社会権力論に關わって―」

石田泰弘「書評 青木美智男著『近世尾張の海村と海運』」

一九九九年度名古屋歴史科学研究会総会報告

活動日誌

第一〇六号 (一九九九・一一・一〇)

森 丈夫「チェサビーク植民地における雇用契約関係の秩序―主人と奉公人の裁判係争をめぐって―」

栗田和典「慣習と議会制定法―産業革命期のイギリス社会―」

若尾祐司「羽賀祥二『史蹟論』(名古屋大学出版会、一九九八年)によせて」

活動日誌

第一〇七号 (二〇〇〇・六・二〇)

大塚英二「近世地域研究のための覚書」

道木正信「『新修名古屋市史』第三巻、第四巻を読んで―守山区の視点から―」

古尾谷知浩「平城宮跡の保存を訴える―京奈和自動車道建設の問題点―」

活動日誌

第一〇八号 (二〇〇一・三・三二)

水野智之「室町時代の公武関係論の視点と課題―王権概念の検討から―」

重松正史「『都市下層社会における社会的結合関係』について」(一九九九年度研究集会報告要旨)

棚橋信明「報告」(一九九九年中葉におけるライン橋の建設問題とケルン市議会)の要旨」(一九九九年研究集会報告要旨)

吉澤誠一郎「清末都市における社会団体」(一九九九年研究集会報告要旨)

二〇〇〇年度名古屋歴史科学研究会総会報告

京奈和自動車道の平城京跡地下道通過計画の撤回と、埋蔵文化財の保全を求める要望書

名古屋歴史科学研究会への参加呼びかけ

活動日誌

第一〇九号 (二〇〇一・九・三〇)

池内 敏「鮮人考」

斎藤夏来「書評 福田千鶴著『幕藩体制的秩序と御家騒動』」

研究委員会「連載企画『博物館を観る』の開始にあたって」

米家泰作「名古屋博物館特別展『尾張徳川家の絵図―大名がいたいた世界観―』(博物館を観る)」

活動日誌

第一一〇号 (二〇〇一・一一・一)

西川長夫「戦後歴史学と国民国家論、その後」

大塚英二「書評 神谷智著『近世における百姓の土地所有―中世から近代への展開―』」

武島良成「史料紹介 南機関関係の新史料―『甲谷悦雄日誌』と『鈴木敬司日誌』―」

活動日誌

第一一一号 (二〇〇二・三・二〇)

梅村 喬「在地再論―古代と中世のあいだ―」

川戸貴史「書評」歴史学研究会編『越境する貨幣』

横山和弘「三河国高橋荘覚書―豊田市郷土資料館『豊田市の城下町展』に接して―」(博物館を観る)」

活動日誌

第一一二号 (二〇〇二・一〇・三二)

近藤健一郎「近代沖繩教育史研究の課題」

三田昌彦「英領前インド社会研究と『古典』」

鈴木楠緒子「『コメント』現代歴史学の潮流と課題」

望月秀人「戦後歴史学の批判的継承のために―二〇〇〇年研究集会参加記―」

二〇〇一年度名古屋歴史科学研究会総会報告

二〇〇二年度名古屋歴史科学研究会総会報告

活動日誌

第一一三号 (二〇〇三・三・五)

末川 清「ドイツ歴史学における「過去の克服」」

鈴木楠緒子「コメント」冷戦構造と「過去の克服」

望月秀人「コメント」現代社会と歴史学―末川報告へのコメント―

堂園毅一郎「二〇〇一年度研究集会参加記」

活動日誌

第一一四号 (二〇〇三・三・三〇)

クヌート・シュルツ著／望月秀人・早坂泰行翻訳「中世後期における手工業者遍歴と新市民」

小島 崇「救貧法研究の最近の動向をめぐる一考察―ステイプン・キングの近業によせて―」

活動報告

第一一五号 (二〇〇三・六・二五)

藤野 豊「『いのち』の近現代史」

武島良成「書評」明石陽至編「日本占領下の英領マラヤ・シンガポール」

二〇〇二年度名古屋歴史科学研究会総会報告
※実際には二〇〇三年度総会のもの

活動報告

第一一六号 (二〇〇三・九・二五)

堀田慎一郎「一九三〇年代の日本陸軍と政治についての一考察―第一次近衛内閣初期を中心に―」

武島良成「書評」倉沢愛子「大東亜」戦争を知っていますか」

活動報告

第一一七号 (二〇〇四・七・三一)

脇田晴子「周縁の民からみた中世社会―女性と被差別民を中心として―」

勝亦貴之「日本近世の貨幣流通に関する試論―黒田明伸著『貨幣システムの世界史』を手掛りとして―」

谷口 央「書評」木越隆三著『織豊期検地と石高の研究』

活動日誌

第一一八号 (二〇〇四・一一・一五)

鈴木奈緒子「一八四〇年代ドイツ自由主義と大新聞の中国論―アヘン戦争をめぐる―」

田辺明生「儀礼のなかの歴史／歴史のなかの儀礼―人類学の視点から―」

三田昌彦「二〇〇二年度研究集会『儀礼』研究の可能性」をめぐる―」

二〇〇四年度名古屋歴史科学研究会総会報告
活動日誌

第一一九号・二二〇合併号 (二〇〇五・四・三〇)

※二〇〇四年四月の拡大例会「江口圭一氏とその学問を考える」を特集したもの

研究委員会「特集にあたって」

木坂順一郎「江口圭一氏とその学問」

堀田慎一郎「江口圭一氏の歴史学研究とその位置」

西 秀成「江口さんの歴史学から受け継ぐもの」

堀崎嘉明「江口史学を学んだ大学生」

正村喜代美「名古屋博物館企画展『尾張史料のおもしろさ 原典を調べる』(博物館を観る)」

活動日誌

第一二二号 (二〇〇五・七・一一)

望田幸男「ドイツを鏡に日本を考える―二つの国の戦前・戦後―」

関口哲矢「戦争責任論議にみる幣原喜重郎内閣期の政策決定過程」

上川通夫「書評 河音能平著『天神信仰の成立』」

第一二二・一二三号 (二〇〇六・三・一)

二〇〇五年 名古屋歴史科学研究会大会特集号 大会テーマ：近世東アジアにおける国際秩序の模索

研究委員会「特集にあたって」

渡辺美季「哈那事件(一五九五年)とその時代―明における「倭人」と「琉球人」―」

池内 敏「大君外交論ノート」

鶴田 啓「池内報告コメント」

討論要旨

二〇〇五年度 名古屋歴史科学研究会総会報告

〔活動日誌〕

第一二四・一二五合併号 (二〇〇六・七・二五)

〔特集〕愛知における戦争展運動の一〇年

〔第一部〕あいち・平和のための戦争展

堀田慎一郎「あいち・平和のための戦争展 一九九六―二〇〇五」

倉橋正直「戦争展運動と中国との交流」

木坂順一郎「もうひとつの戦争展」と靖国史観

〔第二部〕愛知における戦争展運動の諸相

佐藤明夫「半田空襲と戦争を記録する会・この一〇年のとりくみ―戦後五〇年から六〇年へ―」

大東 仁「真宗大谷派名古屋教区「平和展」のあゆみ」

野間美喜子「平和憲法と戦争資料館」

〔別編〕

二橋元長「平和のための埼玉の戦争展―「戦争展」企画の推移と今後の課題―」

今村直樹「書評 若尾祐司・羽賀祥一編『記録と記憶の比較文化史—史誌・記念碑・郷土—』」

二〇〇六年度 名古屋歴史科学研究会総会報告

第一二六・一二七合併号(二〇〇七・五・二五)

二〇〇六年 名古屋歴史科学研究会大会特集号 大会テーマ…東アジアにおける国際秩序の近代的再編

研究委員会「特集にあたって」

奈良勝司「二つの開国論—幕末における世界認識体系の相克—」

沈 箕載「明治新政府の東アジア外交と木戸孝允」

森田朋子「日本におけるイギリス領事裁判制度—枢密院令の発展と上海高等法院判事ホーンビー—」

討論要旨

(活動日誌)

第一二八号(二〇〇八・六・二〇)

二〇〇七年 名古屋歴史科学研究会大会特集号 大会テーマ…中世東アジアにおける貨幣流通の位相

研究委員会「特集にあたって」

大田由紀夫「一四・一五世紀の渡来銭流入—中世日本の場合—」

川戸貴史「中世後期日本における『地域通貨』の視点」

二〇〇七年度 名古屋歴史科学研究会総会報告

第一二九・一三〇号(二〇〇八・一二・二五)

特集 前近代東アジアの国際関係と世界観

研究委員会「特集にあたって」

廣瀬憲雄「古代東アジア地域対外関係の研究動向—『冊封体制』論—東アジア世界』論と『東夷の小帝国』論を中心に—」

手島崇裕「入宋僧と三国世界観—その言動における天竺と五臺山—」

高橋公明「『広輿図』のなかの南海諸国」

池内敏「以酌庵輪番制考」

山口華代「書評 池内敏著『大君外交と「武威」—近世日本の国際秩序と朝鮮観—』」

二〇〇八年度 名古屋歴史科学研究会総会報告

第一三一号(二〇〇九・一一・一〇)

二〇〇八年 名古屋歴史科学研究会大会特集号 大会テーマ…近世東アジアにおける権力と女性像

研究委員会「特集にあたって」

菅野則子「望まれる維新期の女性像」

酒井恵子「近世中国における「操を守った」女性たち」

平野仁也「地方公立館の現状と課題について—蒲郡市博物館の事例をもとに—」

二〇〇九年度 名古屋歴史科学研究会総会報告

第一三二号(二〇一〇・七・二〇)

武島良成「ビルマにおける日本軍の残虐行為について」

高橋哲哉「靖国と自衛軍—戦争する国になるとはどういうことか—」

宮川充史「博物館・資料館の諸問題」

福澤徹三「書評 大塚英二著『日本近世地域研究序説』」

第一三三・一三四合併号(二〇一〇・九・三〇)

特集 近現代東アジアの歴史叙述と文学・メディア

研究委員会「特集にあたって」

吉川次郎「物語世界から見た近代ベトナムと中国・日本—浙江『兵事雑誌』(一九一四—一九二六)所収の小説作品について—」

與那覇潤「小津安二郎と体験史の方法—中国大陆で見た画面と戦場—」

記録 二〇〇九年度大会「近現代東アジアの歴史叙述と文学・メディア」(報告要旨/コメント(坪井秀人)/質疑応答・全体討論)

青木忠夫「名古屋城下町東方地域の近田開発—大曾根町屋敷を中心にして—」

寛 真理子「博物館の現状と学芸員の思い」

第四八回近世サマーセミナー実行委員会「第四八回近世サマーセミナー記録」

二〇一〇年度 名古屋歴史科学研究会総会報告

第一三五・第一三六合併号(二〇一一・一二・二〇)

特集 近世東アジアにおける地域社会と秩序

研究委員会「特集にあたって」

中村只吾「日本近世漁村における「生業知」の問題について—伊豆国内浦地域を対象に—」

山田賢「近世中国における宗族と地域秩序」

大塚英二「名古屋歴史科学研究会二〇一〇年度大会報告コメント」

討論要旨

米家泰作「扶余神宮と史蹟—植民地朝鮮における「内鮮一体」の景觀—」

上野聖薫「書評 岡本隆司、川島真編『中国近代外交の胎動』」

洞ヶ瀬真人「書評 近代史としての小津論 與那覇潤『帝国の残影 兵士・小津安二郎の昭和史』」

二〇一一年度 名古屋歴史科学研究会総会報告 二〇一〇年度の活動報告および二〇一一年度の活動方針

第一三七号(二〇一二・五・三〇)

二〇一一年度 名古屋歴史科学研究会大会特集号 大会テーマ…王権論からみた中世・近世の朝廷と幕府

研究委員会「特集にあたって」

水野智之「応永期の公武政権と「王権」」

野村 玄「元禄・宝永期の綱吉政権と天皇」

コメント・討論要旨

第一三八号(二〇一二・一一・一〇)

宮地正人「原発事故から天皇制を考える」

桃木至朗「全体を見る、違った世界にまたがって生きる―日本の「歴史業界」再生に向けた一方策―」

二〇一二年 名古屋歴史科学研究会総会報告

第一三九号(二〇一三・七・二五)

二〇一二年 名古屋歴史科学研究会大会特集号 大会テーマ：アジアにおける普遍宗教と王権

研究委員会「特集にあたって」

赤木崇敏「金輪聖王から菩薩の人王へ―一〇世紀敦煌の王権と仏教―」

三田昌彦「一〇―二世紀インドの地域王権とチャクラヴァルティ―地域神・統王・普遍主義―」

齋木涼子「中世的天皇像の形成―仏教・神祇と金輪聖王―」

コメント・討論要旨

藤井元博「書評 菊池一隆『戦争と華僑―日本・国民政府公館・傀儡政権・華僑間の政治力学―』」

第一四〇・一四一合併号(二〇一三・二・二五)

〈特集〉歴史教育を考える―中学校の教科書を素材に―

三田昌彦「特集にあたって 合同歴史教育研究会を立ち上げる―歴史教育との共同の経緯と意義―」

半沢里史「特集にあたって 教育現場の現状と合同研究会の意義」

西宮秀紀「『中学社会歴史分野』古代に関する一、二の問題」

廣瀬憲雄「日本古代史研究と中学校歴史教科書」

第一四三・一四四合併号(二〇一五・五・三〇)
〈特集〉山口啓二・人と学問―名古屋での足跡―

研究委員会「特集にあたって」

大塚英二「山口啓二先生の思い出と御著『鎖国と開国』について」

神谷 智「山口啓二さんの言葉」

重松正史「様々な利益のぶつかり合い」

篠宮雄二「たった一年、されど一年―山口啓二先生と歴史学との出会い―」

高橋公明「古文書学から史料学へ」

豊見山和行「山口啓二先生と沖繩」

藤田明良「講義ノートと本山夜塾」

村岡幹生「はぐくみのひと山口啓二先生」

武島良成「太平洋戦争におけるビルマ住民の空襲被害―死傷者数の解明に向けて―」

福岡猛志「研究の初心と研究会の初志―歴史研創立の頃―」

研究委員会「史料の探究―新しいコーナーへのお誘い―」

服部光真「日本中世寺院史料と地域史研究―三河地域における史料調査から―」(史料の探究)

間瀬智広「特別展「文字のチカラ―古代東海の文字世界―」観覧記」(博物館を観る)

二〇一四年度 名古屋歴史科学研究会総会報告

中尾浩康「地域・民衆の姿を授業に」

曾我雄司「『鎖国』はどのように教えられているか」

岡田洋司「『大正デモクラシーの時代』とその曖昧さ」

後藤致人「日本近現代史研究の動向と「考える歴史教育」」

川村治令「単元「第二次世界大戦と日本」の検討会のレジュメから」

梅村 喬「日本古代・中世史上の画期について―「職」から見た―」
斎藤夏来「大航海時代の戦国あいち展」評―「近世化」と「禅宗」の視角から―(博物館を観る)

内田 力「書評 羽田正『新しい世界史へ―地球市民のための構想―』」

二〇一三年度 名古屋歴史科学研究会総会報告

第一四二号(二〇一四・八・三一)

二〇一三年度 名古屋歴史科学研究会大会特集号 大会テーマ：王権と女性

研究委員会「特集にあたって」

遠藤みどり「日本古代王権とキサキ」

栗山圭子「王家をめぐる人々」

松蘭 斉「コメント」

討論要旨

古泉達矢「書評 鈴木楠緒子『ドイツ帝国の成立と東アジア―遅れてきたプロイセンによる「開国」―』」

第一四五号(二〇一六・一・二〇)

二〇一四年度 名古屋歴史科学研究会大会特集号 大会テーマ：環
境史研究の新天地―国際化と検疫―

研究委員会「特集にあたって」

脇村孝平「近現代東アジアにおける海港検疫とグローバルな文脈―「三重基準」をめぐる―」

宮崎千穂「(彼らの病)を予防する―国際政治・医学地誌・文明化の回路―」

高木勇夫「歴史と自然についての一考察」

討論要旨

武島良成「日本のバ・モオ政府に対する譲歩の背景について」

二〇一五年度 名古屋歴史科学研究会総会報告

第一四六・一四七合併号(二〇一六・一・二五)

名古屋歴史科学研究会 創立五〇周年記念大会特集号 大会テーマ：半世紀の軌跡と未来への展望

研究委員会「特集にあたって」

原 昭午「歴史研草創期の時代の私」

上村喜久子「名古屋市「博物館問題」の残したものの―元学芸員の立場から―」

高木備太郎「『建国記念の日』不承認・二、一愛知県民のつとめ」の五〇年

堀田慎一郎「戦争展と歴史研―戦争展運動における歴史学団体の役割とは―」

福岡猛志「コメント」
討論要旨
芝原拓自「感無量の想い、その他」
名古屋歴史科学研究会年譜（一九六五年～二〇一六年）
二〇一六年度 名古屋歴史科学研究会総会報告
第一四八・一四九合併号（二〇一八・三・一〇）
二〇一六年度 名古屋歴史科学研究会大会特集号 大会テーマ：外 世界と地域社会―移民・植民・先住民―
研究委員会「特集にあたって」
金 耿昊「在日朝鮮人社会の形成と労働・失業・貧困問題」
菊池一隆「台湾北部タイヤル族の二段階変容―日本植民地時代、国 民党政権時代を中心に―」
山本明代「第二次世界大戦期ハンガリーにおけるドイツ系住民の強 制移住と地域社会」
討論要旨
平野仁也「寛政諸家系図伝」の編纂と諸家の動向」
春日 豊「戦後歴史学」から何を学ぶか―歴史の法則性・構造・ 主体性―」
小久保嘉紀「書評 水野智之『名前と権力の中世史―室町將軍の朝 廷戦略―』」
二〇一七年度 名古屋歴史科学研究会総会報告

第一五〇・一五一合併号（二〇一八・一二・二〇）
二〇一七年度 名古屋歴史科学研究会大会特集号 大会テーマ：近 代天皇制と伊勢神宮
研究委員会「特集にあたって」
千葉 慶「『アマテラスと天皇』再考―「象徴」天皇制との付き合 い方」
ジョン・ブリン「天皇と国民と神宮大麻…モノから歴史を考える」
林 淳「コメント」
討論要旨
真野素行「戦間期の名古屋における都市構想と岡崎早太郎―先行的 地域拡張による都市計画の源流―」
二〇一八年度 名古屋歴史科学研究会総会報告
『歴史の理論と教育』総目次（二号～一五号）

編集後記

本誌は、一九六五年六月二〇日に創刊されて以来、会員の皆さまに
支えられつつ五三年半を経て、ここに第一五〇号に到達することがで
きました。

そこで、第五〇号、第一〇〇号（第一〇〇・一〇一合併号）に倣
い、本号でも創刊号からの総目次を掲載することにいたしました。第
一四六・一四七合併号（創立五〇周年記念号）に掲載した年譜ととも
に、本会の歴史を語る貴重な史料にもなるものと思えます。
作成にあたっては、すでに総目次のある第九九号までについても、
研究委員会と事務局で手分けをして、あらためてバックナンバーを確
認しました。これまでの総目次は、論稿以外の事項は省略されている
ものも多かったのですが、今回は編集後記以外の事項は原則として掲
載しました。

(H)

投稿を募集しています

- 歴史学・歴史教育に関するもの。
- 四〇〇字詰め原稿用紙なら三〇～五〇枚程度。
- なお、ワープロ原稿は、縦書き、一行三二字でお願いし
ます。採用の場合は、デジタルデータを提出していただき
ます。
- 採否は研究委員会の討議により決定。
- 図表・特殊活字などを必要とする場合、印刷経費の一部
を負担していただくことがあります。
- 原稿を左記までお送り下さい。

会費を納入下さい

今年度分の会費（正会員三〇〇〇円、購読会員一八〇〇
円）を未納の方は、左記の口座まで御振り込み下さい。

〈郵便振替口座〉

（口座名）名古屋歴史科学研究会
（口座番号）〇〇八四〇―一二六五二〇

歴史の理論と教育（第150・151合併号）

二〇一八年十二月二〇日発行
編集・発行 名古屋歴史科学研究会

〒四六四―八六〇―一 名古屋市千種区不老町
名古屋大学文学部日本史学研究室気付

（〇五二）七八九―二三二八

印刷所 株式会社 カミヤマ

（〇五二）五六五―一一一八